

史学委員会国際歴史学会議等分科会（第25期・第1回）

議事要旨

日 時：2020年1月11日（月・祝）10:00～12:10

場 所：オンラインによる開催

出席者：栗田禎子、橋本伸也、浅田進史、飯島渉、石居人也、小田中直樹、
小関隆、中野聡、松方冬子、三ツ井崇、吉澤誠一郎

1. 役員の選出

本期の役員を選出した。委員長に吉澤誠一郎委員、副委員長に小関隆委員、幹事に小田中直樹委員および浅田進史委員が互選された。

2. 国際歴史学会議（CISH）に関する件

吉澤委員が、第24期までの経緯を踏まえて、本分科会が国際歴史学会議からみて日本の国内委員会として位置づけられていることについて説明した。また、ポーランド共和国ポズナンで昨年開催予定であった第23回国際歴史学会議が、2021年8月に延期されている事情にも言及した。その後、浅田委員が、第24期分科会委員長であった小澤弘明氏からえた資料などに基づいて、国際歴史学会議に対する日本側の運営のありかたについて、過去の経緯を説明した。これらの確認を踏まえて次のような意見が出された。

- ・国際歴史学会議は、ヨーロッパ諸国に起源があり、近年は東アジアを含む国際化を進めているものの、まだ中東諸国の参加は限られている。国際歴史学会議のさらなる発展のための取り組みをしたい。

- ・国際歴史学会議については、各国の国内委員会のありかたは多様であり、日本としての的確な運営・参与の方式を考えていくべきである。

- ・国際歴史学会議の理事改選にあたり、いかなる対応をとるべきか考える必要がある。

3. 日韓歴史家会議に関する件

飯島委員から、日韓歴史家会議に関する過去の経緯や現状について説明があった。あわせて、最近では2020年12月にオンラインで開催され、成果を収めたことも紹介された。その後、次のような意見が出された。

- ・日韓両国の外交関係の影響を受けるなど、運営に難しい点もあるが、かならずしも日本史・韓国史に限定されない歴史家の交流の場として有意義な事業なので、継続していくべきである。

- ・同時通訳などの費用を要するので、財政的な基盤の維持が不可欠である。

4. その他

(1) 幹事会から出された「第 25 期の分野別委員会、分科会等の活動について(お願い)」を踏まえて、分科会としての自己点検をおこなうことが求められている。これについては、本日の会議を踏まえて分科会の役員で文案をつくり、持ち回りで分科会としての承認をはかる。

(2) 次回の分科会は次年度の開催予定とする。